

Title	強誘電体若手グループ夏期研究会報告
Author(s)	
Citation	物性研究 (1964), 3(1): 43-43
Issue Date	1964-10-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/85613">http://hdl.handle.net/2433/85613</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

## 強誘電体若手グループ夏期研究会報告

8月24, 25, 26日の3日間にわたり、47名参加の下に、長野県上諏訪において研究会を開催した。昨年（於北海道大学）、強誘電体一般にわたる研究手段をとりあげたのと異なり、本年は、X線による構造の問題を主とした強誘電体の研究に焦点を絞った。昨年の出席者の総意により、テーマはX線結晶学の基礎より応用迄の非常に広い範囲にわたつたため、やや散漫になつた感をまぬがれ得なかつた。研究会の日程およびプログラムは次の通りである。

8月24日(月) 1時30分より開催

p.m. (1) 結晶学の基礎（通研）小泉日出雄

p.m. (2) X線回折理論の概要（東工大）原田 仁平

8月25日(火)

a.m. (1) X線回折の実際（早大）山田 昌

a.m. (2) 中性子線回折（物性研）佐藤 昭一

p.m. (講義) 強誘電体の結晶化学（阪大産研）桐山 良一

8月26日(水)

a.m. (1) 異常分散，絶対構造（北大）塩崎 洋一

a.m. (2) NMRと構造決定（早大）大井喜久夫

p.m. (1) Critical Scattering（通研）新関 暢一

p.m. (2) 赤外線吸収（物性研）石橋 善弘

第1及び第2日目は基礎事項に重点を置いた。桐山教授は強誘電体に関連して、polar crystalの結晶化学的整理，更に強誘電体のこれらの中に占める位置，特にその結合性の問題点等多くの例を用いて興味深く解説された。

第3日目は、X線の強誘電体における興味ある問題およびその他の構造決定に関連した問題を取りあげた。ここでは赤外吸収も含めて、 $\text{BaTiO}_3$ の構造が討論の中心となつた。特に $\text{BaTiO}_3$ の構造を決定する際のX線回折法の限界については多くの意見が交された。更に $\text{NaNbO}_3$ のantiferroelectric phaseの構造についても多くの質問，意見が提出されたが、この問題に関しては秋の学会の際まで持ち越されることになつた。

（通研）岩 崎 裕